

跡地利用について、市民に説明する時間がなかったという答弁に終始されたと思います。

私は十分にあったんだと思います。中対馬病院跡地についても、3年前に議会に提示しているんです。そして上対馬病院の跡地利用についても、県の病院企業団議会の中で、3年前からこのことについて、上対馬病院の跡地利用については、市民を含めた中で決定していくような方向性でお願いしたい、ということで、企業長にお願いし、理解を得て、対馬市に選定の委託をした時点で、すぐにでも説明会をしてほしいということ、企業団にも伝えましたし、企業団を通じて対馬市のほうにもお願いしてきたところです。

ですから、この時間がなかったというのは、大変申し訳ないですが、言い訳にしか私には聞かれません。今後重要な計画や執行の事業については、適時検証し、その検証結果の公開にも努めていくということ、この際、お約束いただけませんか。

対馬市観光振興計画も2回の報告会をしようと言いながら、1回、しかも当初予算後しかやっていないじゃないですか。そのあたり、市民に誠意ある答弁を求めて、最後の質問にします。市長、よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も、市民協働をやらないと言っているわけじゃなくて、きちんと市民協働に邁進してまいりますという答弁を、いつもしているところでございますので、その適時、適時に、そのようなことは判断をしながら、進めてまいりたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） これで協本啓喜君の質問が終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時5分からといたします。

午前11時56分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 本日、一般質問をする前に、一言申し上げます。

私は今回、この対馬近海で断層がはっきりとしたことで、国のほうから資料を打ち出したのを見たときに、能登半島地震人ごとではない、対馬近海のこの断層がいつかはやってくるなというふうな思いで、島民の皆様、ここにおられる議員の皆様、先般の請願に対して結果は出ましたが、やはり深い学習をすることが、この問題は求められているようであります。

そういう意味で、勉強をすることで簡単に決まるわけではないというふうなことで、心を広く持たれて、私は一つの訴えをしてみたいと、こう思います。

そういうことで、能登半島地震の原因は、半島先端部の震源から海底に走る断層が連動を起こして、大惨事を引き起こした、このようなことであります。

この中で、大変痛ましい結果が出ております。質問に入ります前に、被災された方々、そして改めまして、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆様に心からお見舞いを申し上げます。

質問に入る前に、比田勝市長、当選おめでとうございます。ひとつ4年間頑張ってくださいませ。

それでは、今回、能登半島の地震に学ぶもの、そして、韓国人観光客の動向について、これをタイトルとして、ただいまから質問に入らせていただきます。

最大震度7の地震が起き、甚大な被害が発生した能登半島地震、この原因は、半島に延びる活断層が引き起こしたものと分析されております。

2月12日、長崎新聞は、本県内及び周辺海域の断層の位置図を公表しました。これは、政府の地震調査研究推進本部の資料によるものでありますが、対馬近海に複数の断層が存在しているようであります。高レベル放射性廃棄物の最終処分場の誘致に揺れております本市の中で、この問題を市長はどのように捉えておりますか。

私なりにその後、いろいろな角度で質問をしてみたい。このように思っております。質問の内容が複数ございますので、現在の登壇しておる質問内容は極力短くさせていただきます。

それと、韓国人観光客の動向について、過去41万人が対馬へ来島された中、コロナ感染拡大により、国際航路の運行は休止されておりましたが、昨年より運行されているようであります。

現在の釜山・対馬、釜山―比田勝の航路は2隻のみの実績、釜山―厳原間はゼロであります。コロナの感染拡大、運休、入国禁止、この現実には船会社に相当なダメージを与えて、倒産された方も耳にしております。

韓国の状況をどのように捉えておるのか、そこらについて、お言葉を頂きたいと思います。

簡単ですが、私の最初の質問は短く切り上げて、後に、複数の質問を市長のほうにしたいと思えます。よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに、1月1日に発災いたしました、能登半島地震及び2月12日の新聞報道等を踏まえ、今後、対馬としてどのような対応を行っていくのかとの質問でございますが、政府の地震調査委員会が一昨年の3月に発表しました、今後30年間の長期評価によりますと、長崎県周辺域に9つの新たな活断層の存在が確認されており、そのうち5つが、対馬周辺域であるとの調査結果が出ております。

また、この9つの周辺域におけるマグニチュード7以上の地震が発生する確率について、1%から3%程度であるとの報告がっておりますが、これは巨大地震のリスクの代表となっております南海トラフ地震でマグニチュード8から9クラスの発生確率が70%から80%、首都直下型地震でマグニチュード7程度の発生確率が70%程度との予測であり、これらと比較しても、最も発生頻度が低い区域であることも発表のとおりであります。

今回、長崎県域で確認されました9つの活断層につきましては、令和6年度に長崎県地震発生想定検討委員会において、今後、起こりうる地震災害の想定、津波による被害予測を行うこととなっております、これらを踏まえて地域防災計画の見直し等も行っていきたいと考えております。

しかしながら、能登半島地震のように、突然、巨大地震が起こることもございます。今回の災害では、半島という地形に起因して孤立が際立った災害ではないかと思っております。

対馬市も181の行政区を抱えており、幹線道路等が被災した場合、孤立の懸念がありますが、今後の対応としまして、自主防災組織の組織力を高めることで、自助、共助の強化を図り、災害発生時に孤立ではなく、自立できる地域づくりを目指しながら、地域の防災力向上に努めてまいりたいと考えております。

次に、韓国人観光客の動向についてでございますが、令和5年2月25日から、比田勝釜山間の国際航路が人数制限を行いながら再開され、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となった5月8日から、人数制限がないフルオープンでの運行が行われました。

市の令和5年における国際航路の韓国人入国者数は、11万9,061人で、平成30年のオーバーツーリズム状況であった41万5,375人に比べ少ないものの、人数制限がなくなった令和5年6月から12月までの月平均の入国者数は約1万5,000人であり、徐々に回復傾向であります。

国際航路の状況につきましては、現在2社、パンスターとスターラインでございます。この2社による2隻体制で、比田勝港に毎日運航しており、そのうち1社のパンスターが土日に1往復半の運航をしております。

厳原港につきましては、厳原港国際ターミナルの1期工事が終わりましたので、4月23日以降、2社でございますけども、パンスターが23日から、スターラインが26日から、比田勝港と曜日を分けて運行を開始する予定となっております。

また、昨年6月定例会で申し上げましたもう一社につきましては、いまだ運航免許の申請に向け準備中とのことであります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 能登半島地震の被災状況について、3月1日付のNHK関係の、

そういうふうな取りまとめをちょっと紹介したいと思います。

この地震で亡くなった方が241名、これは石川県の範囲のみといたしております。安否不明7名、重軽傷者1,188人、避難者は当初2万35人、3月では1万1,048人となっております。そして、462か所の避難箇所では生活されておると、こういうことです。

断水が発生当時11万戸、現在は1万8,380戸が断水ということで、おおむね9割以上が水が出るようになったということになっております。

それと、最後に住宅の被害が全体で7万6,000棟、このような数字が出ております。

そして結果的に、最大震度7、震度計の針は2,828ガルというふうなことで聞いております。そういうふうな単位が出ております。

それと、この地震の特徴は、隆起という地下そのものの構造が上に上がっていく、そして地上にその形が現れて、能登半島の西側の約100キロメートルに近い海岸では、隆起が起きて船が出られない、港が浅くなって漁ができない、このような大変珍しいことが起こっております。

津波は最大5メートルということがテレビ報道であっておりますが、これははっきりと確定をまだしないということで、役所のほうの確認を取ったらそういう言い方をされておりました。

それと、この震源となった活断層の内容ですが、約150キロに及ぶ幾つかの断層が連動して動いておる可能性がある。ここにちょっと問題であるんですが、石川県志賀町の北陸電力志賀発電所は1号機、2号機がある中で、2機とも休止をしておったそうですが、1号機のほうか知りませんが、トラブルが発生して2万リットルの油が外に出た。変圧器を外部からの電気を取るような、福島原発の教訓を得て、そういう対処をしとった中で、変圧器が損傷し、油漏れが相次いで発生。2万リットルが海にこぼれたと、このようになっています。

これを少しチェックしていったら、非常にずさんというよりは、原発の下が断層の土地であった。活断層か、ただの断層か、これは少々時間をかけて、悪い時期といい時期とあるようですが、最終的には12万年から13万年前以降にこの断層の動きがあれば、原子力発電は取り消し、廃炉になるというふうな判定をするそうであります。

近隣にそういう活断層があった場合にも、影響があればやるということで、今後、海岸にある原子力発電所の断層が近辺にある箇所については、全部チェックをして、場合によっては、存続できるか、あるいは廃炉にするか、こういう判定をするようなことになるだろうというふうな新聞記事が書かれております。

そのようなことで、原子力発電所の下に断層があったという、非常に珍しい話なんですが、チェックする能力がないと書かれています。要は活断層を地下に潜水してどういうチェックするか知りませんが、そういうふうなことが非常にできておらないということで、根本的なことを見直していかないかんだらうというふうな、原子力行政に警鐘を鳴らした記事でありました。

ここらが、能登半島の大まかな被災の状況なんです、その後、今年2月25日に西日本新聞が出しております内容は、先ほど市長のほうも申しておりましたが、九州の北方沖、そして北西沖（西部）、これ長崎県のことですが、福岡県と佐賀、長崎の範囲の海底にあります活断層を、政府の地震調査委員会が表に出したと、かようなことでございます。

私は今回の一般質問は、対馬の島民が、自分の島の範囲のどこに何があるかということは、分かっておらないかんということを思いました。

それで上からいきますが、この範囲ですが、対馬北方沖断層、下が、これは五島堆断層帯ということで、73キロメートル前後の数字がありますが、ほとんど30キロメートルから、小さいところで20キロメートル以上、対馬は30キロメートルから40キロメートルの長さにあろうかと思います。

その次に、対馬上県西方沖断層、これです。非常に陸域に接しております。近いです。それから、対馬南方沖断層、これは、豆舂崎の先端から30キロメートル前後の断層が走っていると、こういうことです。

そして、近辺なんです、もう一つ、ここに、これはNCCの長崎文化放送が、2022年の4月8日にテレビのニュースで出したこの画像を拡大しとるんですが、ここに一つ抜けております。これが対馬東水道断層、かようなことでございます。

そして、長崎新聞の記事の中で、1700年、元禄の時代です、赤穂浪士の討ち入りの頃です、その頃にマグニチュード7.0の地震が発生したと。この断層で起きたということをはっきり新聞に書いております。そういうことであります。

それから、近辺の状況ですが、壱岐の島と、それから豆舂崎から少し南下した場所、七里ヶ曾根、七里ヶ曾根と言えば、水産業界では好漁場というふうなことで、対馬は高浜のなわの漁師さん、それから壱岐のほうが全面的にここは陣取っているわけですが、七里ヶ曾根の断層、こういうようなことが影響があるだろうと。

最後に、この中で、第1五島堆という、断層帯。これは73キロくらいの長さらしいですが、マグニチュード7.9。要は大きな地震を引き起こす内容となっており、新聞紙上ではそういうふうな社説を書いております。

これを私は、現在、対馬は地震が起こらないということで物事を考えてきたわけですが、ここで私はそうではないというスタートを切ったのが、一昨年、政府の報告。これによって大きく、対馬の地上だけでなく、海域にある断層が大きな地震等を引き起こし、地下の構造に大きな影響を与える。このことを少し研究、勉強せないかと、かように思っております。

なぜならば、現在進めておる核廃棄物の最終処分の埋設は、300メートル地下に、そういうふうな構造物を造った中に埋設してしまう。そして、坑道を全部塞いで、二度と処理が、取扱い

ができないような世界を造ろうかとしておりますが、この地震がそういうふうなことに、果たしてできるものかどうか。ここらは大きなハードルが上がったように思います。

市長、どうでしょうか。私は、今回の政府の地震調査委員会が出した、この対馬近海の断層の位置を表して、過去の実績も含めて、数百年、もしくは数十年に1回の割合で回ってくるというふうな解釈であります。ここについて、市長、どのように捉えておられるか。今からの、廃棄物の問題を含めて、地下の怖さ、あるいは、学習、かなり深いものがあると思いますが、市長の考えあればお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 対馬近海に5つの断層があるということで、このうちの特に、対馬東水道の断層につきましては、1700年にマグニチュード7クラスの地震が発生をしているということは、文献のほうにも書かれているところでございます。

そういった中、この1月1日に発災いたしました、能登半島地震におきましては、甚大な被害が発生をしております。そのことを考えますと、ここ対馬のほうは、離島でございますけれども、離島か半島かの違いこそあれ、また、いつの時点かで、そのような地震が発生することは、確率は少ないということではありますけれども、いつの時点かでは、そういった地震は発生する可能性は十分にあるということで、私は考えております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 対馬から福岡、そして、壱岐の前後含めて、これだけの活断層があるんだよというふうなことが、長崎新聞に出ております。

先ほど、市長が、そういう実例を、1700年ということで報告されましたが、私は、昨年もこのことを読み上げたことがあるんですが、再度聞いてほしいと思うんですが、先ほど言いました、324年前の1700年、マグニチュード7.0の規模の地震が、対馬東水道で起きた。

それとは別に、対馬歴史民俗資料館で、これは平成15年2月15日の26号で、このようなことが書かれております。書かれた方は、小山課長というお方でございますが、1こまをちょっと読ませてください。

対馬は火山帯のない島で、地震はないというのが一般的でありました。また、近年実際に発生していないからである。ところが、対馬の郷土誌や古文書をひもといていくうちに、対馬でも過去、地震に見舞われたことが分かってきた。本稿では、宗家文庫史料を中心に紹介したい。

このようなことでありますが、宗家文庫は、この毎日記という中で1635年が最も古いということですが、その前については、對州編年畧とかいう資料から用いておりますので、読み上げます。

対馬の地震年表、記録で残されている最も古い順として、1番目に1257年、767年前、

正嘉元年、春というふうなこと書いております。2番目に1410年、これは今から614年前になります。応永17年、正月の21日という書き方をしております。

次に3番目、1670年、354年前に遡ります。寛文の10年、8月の21日に起きたということが書かれております。次に1699年、325年前、元禄の12年、2月27日。次に先ほど言いました1700年、324年前、元禄13年、2月24日。これはマグニチュード7.0の規模で、対馬東水道の断層によって発生したと、当時の武家屋敷の石垣はほとんど、延べ1,500メートルにわたって崩れた、このようなことが書かれております。

次に、6番目に1730年、294年前、享保15年、正月の24日という書き方をしております。そして最後に1792年、232年前、寛政4年、12月3日。

過去の歴史の中でこのようなことが、宗家の文庫史料、そしてまた對州編年畧、こういうことでありますが、それ以降については記録があったとしても、チェックしておるものは誰もおらない、かようなことであります。

次に、私は何を言いたいのかといえば、市長が30年からそこらの間に起こる確率を1%から3%とかいう話ですが、じゃあ100年、200年、300年になれば、当然これは上がってくるわけです。

それで問題は核廃棄物の保管を何年のフェーズで地下に埋めて問題のないようにしておるかということなんです。ここに引っかかりを、私は考えるんです。必ず1回埋めたものが何もないというふうなことであればいいんですが、地震が起こった場合については、何があるやら分からない。地殻変動はそういうふうなことが非常に危険な状態であるということが書かれておりますので、このことについてちょっと触れてみたいと思います。

昨年、この議会の場におきまして、請願審査特別委員会があったときに、経済産業省、そして原子力発電環境整備機構NUMO、この大きな組織の代表が来て、これはNUMOの資料なんです、議員誰もが持っていると思います。

ここのページ数は、見出しの2番の8ページにあります。

科学的特性マップ、2017年7月公表。公表というのは、経済産業省がこの基準を出したという意味であります。それをNUMOが参考に、国民に対する全国説明会の資料として使っております。

この中で、日本でも地層処分に好ましい特性が確認できる可能性が高い地下環境が広く存在するとの見通しを云々と、こういう書いていますが、この地図の中で火山や活断層に近い場所はオレンジ色、要は危険な場所、そういうふうに分類しております。

次にシルバー——銀色です。地下に鉱物資源がある。ここについては好ましくありませんということです。埋設が。

次に、グリーンの色。これは好ましい特性が確認できる可能性が相対的に高い。

次、濃いグリーン。グリーンの中で廃棄物を輸送する面でも好ましいということでございます。

じゃあ、対馬の色分けはどうなっておるか。これはグリーンでございます。私はここには大きな焦点があると思います。NUMOの、言わば経済産業省の説明、その時点でこのことはもう分かっておったんです。前年度出ているんです。それには一切触れんやったということは自治体のほうが手を挙げたら黙ってやるということです。自分のほうからあなた、ここ断層が入っているから適当な場所じゃありませんよということは先に言わない。自治体が手を挙げて採択をさせてくださいとなれば、はい、はい分かりました。それじゃあ調べましょう。こうなんですか。

私はここで言いたかったのは、対馬の方々はこの学習をせないかん。ここに断層があって、どれだけの規模の地震が起きて、地下300メートルの埋設がこれに影響があるかどうかのことは、非常にやはり大事な問題であります。

再度、嫌でしょうが、申し上げますが、この資料に書いております。もう分かっていると思いますが、地下処分場の概要については、ガラス個化体4万本、これを全国1か所につくるということなんです。恐ろしい話なんです。

その僅か1個の個化体が、1メートル30センチくらいの高さのステンレスの中に廃液を入れて、その廃液をガラスの、要は溶液を溶かしたやつと固めるということです。これを入れて、20センチそのまわりに鉄の塊をかぶせて、そしてそのまわりに粘土が70センチの圧をつける。これが約500キロになります。これを4万本です。この規模が地下に6平方キロメートルから10平方キロメートルといいますから、3,000メートル真四角に埋める空間をつくって、そのあと何に埋め戻すか私は確認はとっていませんが、空間をつくるということになるんです。取りあえず。

そして、なぜ粘土をつくるかというのは、学者の意見ですが、中の金属は全部腐食すると、これは空気と水が室内におよべば、そういうふうになるということでありまして、最後はそういうふうなことが、排液がもしかしたらガラスから外れて離脱した場合には、流れ出るということが起きる可能性があるということです。

だから地震は人間の造った構造物を押し上げることもあるかもしれんというふうな定義があるんです。ですから私は、隆起という言葉があって港の船が4メートル上に上がった、栈橋だって、防波堤がです。それがずらりやけん。

どういうことかと言え、下の圧が上がってということですから、場合によっては、今の最終処分場の工法が、どうあれ、岩が強硬とはいえど、中に空間が作る格好になるんですよ、一応はそれを下から上げた場合に大きなことになるかもしれんし、分からない。

私は、この辺を今後やはり勉強しながら、市長、学者を入れて、長崎県が独自の調査をやる



いう中で、やはり学者を入れてやらないと、一般の世界でこのことの答えは出ません。そういうふうな、関わる方が非常に真剣な角度で勉強して、自分のふるさとのチェックをするということ、私は持つ必要があると思いますが、市長、いかがですか。そこらの問題を、県と一緒に、タッグ組まないかと思っています。どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も、大浦議員おっしゃられるように、1月1日に能登半島地震が発生をした際に、すぐ、この科学的特性マップのことが頭に浮かんでまいりました。

対馬はもちろん緑色でございますけども、能登半島はどうなっていたかなと思って、確かめてみましたら、能登半島の一番先端の珠洲市のあの辺が橙色でございましたけども、そのほかはみんな対馬と同じ緑色でございました。

そういった中で、能登半島であのような甚大な被害が起きたということで、対馬の方でも起きる可能性も十分だということを、確認をした次第であります。

そういうことで、我々も市民の一人として、今後このことについては、もう少し深く勉強をしてみたいと思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 自分のほうからばかりしゃべったのは、私初めてだと思います。あんまりいいことじゃないんですが、どういうことかと言えば、分からんことがいっぱいある中で、人に聞いて言うてやり取りはできません。ただ、新聞というのは根拠がありますから、そこを読んだ中で広げたい、そういうことを気をつけましょうと。

その位置が、この位置が、比田勝の沖にありますよと、これを頭の中に入れて、特に上県町、もう近くです。10キロ前後あるかないかでしょう、端が。上県町ずらりです。峰町まで来ていますから。それから豆殿の先端部、巖原町、美津島町の東水道、そこらのことを皆さん分かってくださいよと、何があるか分かりませんということ。

だから、市長、3%とか1%というのは、今の処分場については、そんな数字は問題ないんです。それより、いつ埋めてしまった後にひっくり返るかの方が、もっと恐ろしいんですから。

そこらを今の時点で議論をしながら、そしてまた学者の意見をやっぱりよう聞きまして、そこらの角度を、遠くの先じゃなくて、今の中で受け入れるということが大切じゃないかなと思います。

それでも残り4分ですが、先ほど1万3,000人ぐらいと、韓国の観光客のことを言っておりましたけども、一応、能登半島の件につきましては、こんくらいにしたいと思います。

韓国のことはこうやったんですよ、韓国の国も相当ダメージを受け取ると思うんです。関係す

る旅行会社は別ですけども、船会社が倒産していると思います。

大亜高速海運という有名な、この対馬で20年引っ張ってきた一番基本的な会社、これが頭上げきらん、そこらあたりはそういう事情じゃなかろうかと思うんですけども、それと韓国経済もかなり若者の失業率が高いというふうなことが、テレビで放映されとったし、あんまりいい状況でなかったのはありましよう。この3年間の間に。

韓国の観光客と日本の国内の観光のバランスを、どのように考えておられますか。バランスというのは、この宿泊所が限られた中で、どのくらいの人口のバランスが適当なのか、そのあたりは、担当部長でも結構ですが、意見があれば、ください。

だから、41万という数字は恐らくもういつきはないだろう、頭打ちになった時点で、日本の国内観光客をもっと推進するというふうな考えとかありましようが、その辺の思いをあれば聞かせてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 詳細なことにつきましては、担当部長のほうから答えさせたいと思いますけれども、私が今考えておりますのは、やはり平成30年当時のオーバーツーリズムになってはいけないといったことで、今現在、国内観光客が大体14万人程度というふうに聞いております。韓国からのお客さんが、今大体月平均1万5,000人でございますので、これを年に換算しますと約18万人ぐらいといったところで、もう少し韓国人観光客は今後増えてくるものとは思いますが、ただ以前みたいなオーバーツーリズムには、ならないようにということで、気をつけてまいりたいと思っております。

○議員（16番 大浦 孝司君） 一応、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

部長あればいいですか、せっかくやけ、何か言いたそうやけ、どうぞ。

○議長（初村 久藏君） 簡単に答弁してください。観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） 今、市長の答弁とも重なりますけども、41万人来ていた頃は、確かにオーバーツーリズムで、市民の方からもいろいろな苦情が寄せられたという事実がありますので、そのような状態にならないようバランスを取りながら、日韓両国の観光客の誘致には努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議員（16番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問を終わりました。

明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後 1 時56分散会

---